

2016年度(2017年3月期) 決算説明会

2017年4月27日

株式会社アドバンテスト

ご注意

◆会計基準について

本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。

◆将来の見通しに関する記述について

本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

ADVANTEST.

2016年度 決算報告

取締役 兼 常務執行役員
中村 弘志

2016年度業績概要

	2015年度	2016年度	前年度比	
			増減額	増減率
受注高	1,515	1,647	+132	+8.7%
売上高	1,621	1,559	-62	-3.8%
売上総利益	915	897	-17	-1.9%
売上総利益率	56.4%	57.6%	+1.2pts	
営業利益	126	139	+13	+10.4%
営業利益率	7.8%	8.9%	+1.1pts	
税引前利益	118	150	+33	+27.7%
当期利益	67	142	+75	+112.1%
当期利益率	4.1%	9.1%	+5.0pts	
受注残	335	422	+88	+26.2%
為替レート				
	1米ドル	121円	108円	12円 円高
	1ユーロ	133円	119円	14円 円高

ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

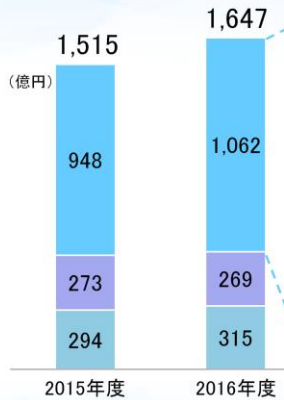
4

○ 2016年度の業績概要

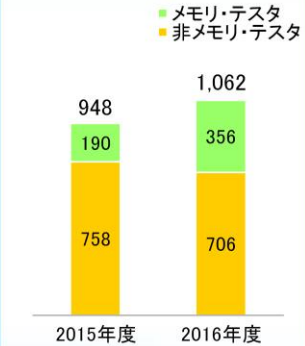
- 受注高 1,647億円 前年度比 8.7%増
- 売上高 1,559億円 前年度比 3.8%減
- 売上総利益 897億円 前年度比 1.9%減
- 営業利益 139億円 前年度比 10.4%増
- 税引前利益 150億円 前年度比 27.7%増
- 当期利益 142億円 前年度比 112.1%増
- 上期は非メモリ・テストが、下期はメモリ・テスト需要が盛り上がり、円高影響を受けながらも受注高は前年度を上回る
- 下期のテスト需要の急伸に伴い生産が逼迫し、一部の商談の売上が2017年度にずれこみ
- この影響もあり、1月公表の売上予想 1,580億円 と営業利益予想 160億円に届かず
- ただし、売上総利益率の改善により、前年度比減収でも増益を達成
- 通期の金融損益がプラスで終わったことと、繰延税金資産再計上で、当期利益は前年度比倍増

2016年度受注高実績

【事業セグメント別】



【半導体・部品テストシステム内訳】



【地域別】



■ 半導体・部品テストシステム
■ メカトロニクス関連
■ サービス他

■ 日本 ■ 韓国 ■ 台湾
■ 中国 ■ 米州 ■ 欧州
■ その他

※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

5

○ 事業セグメント別、地域別の通期受注実績

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 前年度比12%増 1,062億円
- ・ ハイエンド・スマートフォン関連需要、LTE基地局向けの需要に前年度ほど勢いがなく、非メモリ・テスト受注は減少
- ・ DRAM、NANDフラッシュ向けのメモリ・テスト需要が特に下期に伸び、メモリ・テスト受注は前年度比倍近く増加。セグメント全体の受注増につながった

○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前年度並み 269億円
- ・ ナノテクノロジーの落ち込みを、ハンドラやデバイス・インタフェースの伸びで相殺

○ サービス他事業

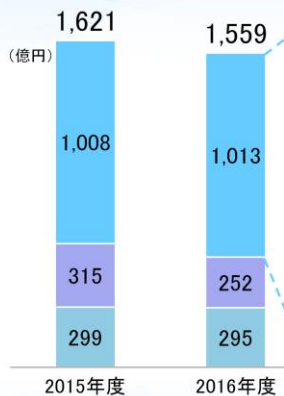
- ・ 前年度比7%増 315億円
- ・ サービス需要堅調

○ 地域別

- ・ メモリ向けで韓国が、車載向けで日本や欧州が伸びたが、ハイエンド・スマートフォン関連需要の減速で米国が減少

2016年度売上高実績

【事業セグメント別】



【半導体・部品テストシステム内訳】



【地域別】



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

6

- 事業セグメント別、地域別の通期売上実績
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前年度並み 1,013億円
 - ・ 上期は非メモリ・テストが、下期はメモリ・テストが好調
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前年度比20%減 252億円
 - ・ 期初デバイス・インタフェース需要が軟調だったこと、ナノテクノロジーが通年低調だったことで、前年度実績を下回る
- サービス他事業
 - ・ 前年度並み 295億円
- 地域別
 - ・ ハイエンド・スマートフォン関連需要の伸び悩みで米国が、メモリ向けの落ち込みで中国が、それぞれ減少
 - ・ 車載関連で日本が伸び、通期の海外売上比率は88.2%

業績概要 四半期別

	(億円)								
	2015年度 4Q	2016年度 1Q	2016年度 2Q	2016年度 3Q	2016年度 4Q	前期比		前年同期比	
						増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	406	438	285	440	484	+44	+10.0%	+78	+19.3%
売上高	459	407	355	314	483	+170	+54.1%	+25	+5.4%
売上総利益	272	253	210	181	253	+73	+40.3%	-19	-6.8%
売上総利益率	59.3%	62.2%	59.3%	57.6%	52.4%	-5.2pts		-6.9pts	
営業利益	61	57	26	10	46	+36	+374.2%	-15	-24.8%
営業利益率	13.4%	14.1%	7.3%	3.1%	9.5%	+6.4pts		-3.9pts	
税引前四半期利益	54	62	29	6	53	+46	+736.1%	-1	-1.4%
四半期利益	40	50	23	1	68	+67	+61倍	+28	+69.7%
四半期利益率	8.8%	12.2%	6.4%	0.4%	14.1%	+13.7pts		+5.3pts	
受注残	335	365	295	422	422	+1	+0.1%	+88	+26.2%
為替レート	1米ドル	118円	111円	104円	105円	115円	10円 円安	4円 円高	
	1ユーロ	130円	124円	116円	115円	122円	6円 円安	8円 円高	

ADVANTEST.

2017/4/27

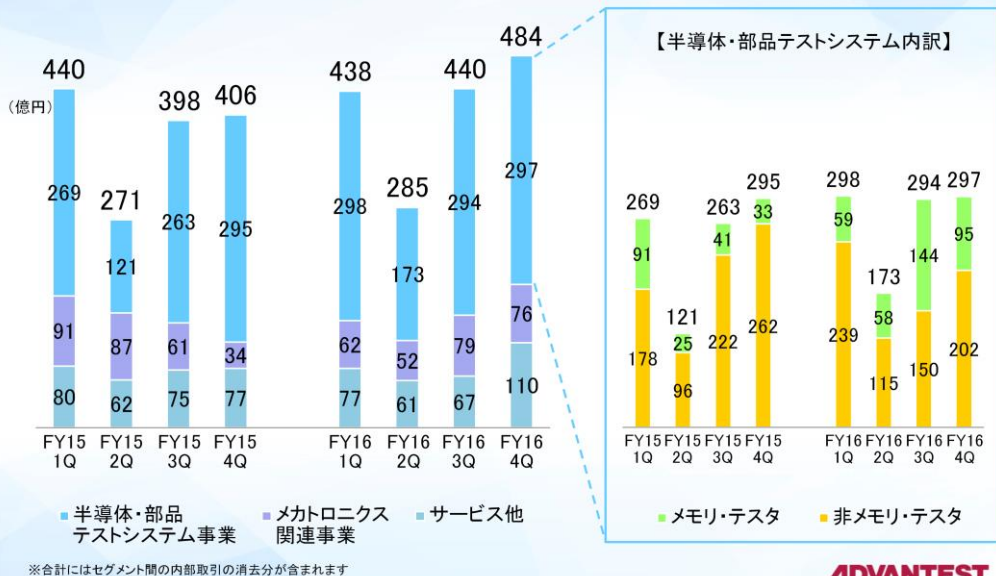
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

7

○ 2016年度第4四半期の業績概要

- 受注高 484億円 前期比 10.0%増
- 売上高 483億円 前期比 54.1%増
- 売上総利益 253億円 前期比 40.3%増
- 営業利益 46億円 前期比 4.7倍
- 税引前四半期利益 53億円 前期比 8.4倍
- 四半期利益 68億円 前期比 61倍

四半期受注高 事業セグメント別



ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

8

○ 2016年度第4四半期のセグメント別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期並み 297億円
うち非メモリ・テスト 202億円
メモリ・テストは 95億円
- 非メモリ・テストは、スマートフォン、サーバー関連の受注を主体に伸びた。
スマートフォン在庫調整の影響で、前年同期並みの水準には至らず
- メモリ・テストは、大手メーカーの設備投資意欲が3Qに引き続き、特にNAND向けで、旺盛だった

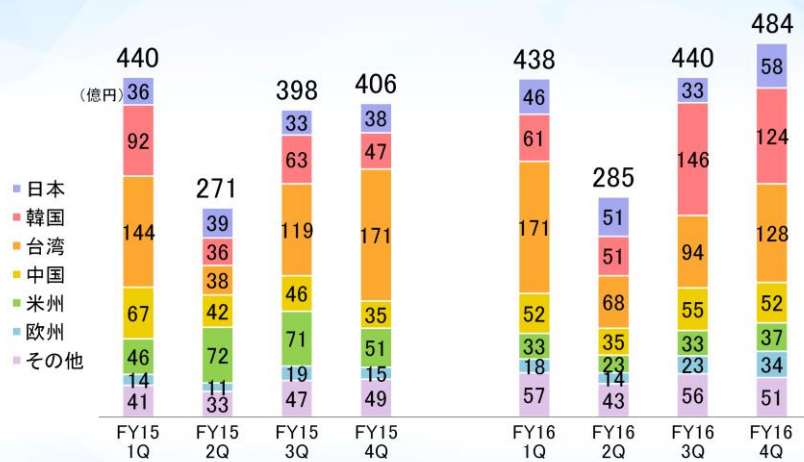
○ メカトロニクス関連事業

- 前期並み 76億円

○ サービス他

- 前期比 65%増 110億円
- 保守契約の伸びによる

四半期受注高 地域(出荷先)別



ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

9

○ 2016年度第4四半期の地域別受注高

- 前期比で変動が大きかった地域

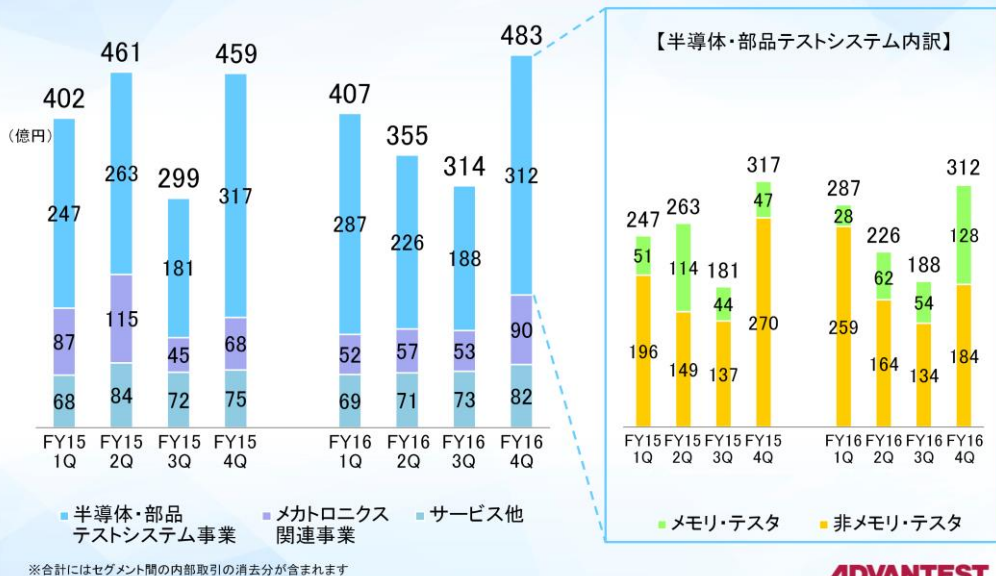
韓国

3Qの受注が強かった反動の減少、引き続きメモリ・テスト受注は好調

台湾

スマートフォン関連の非メモリ・テスト需要が増加

四半期売上高 事業セグメント別



ADVANTEST.

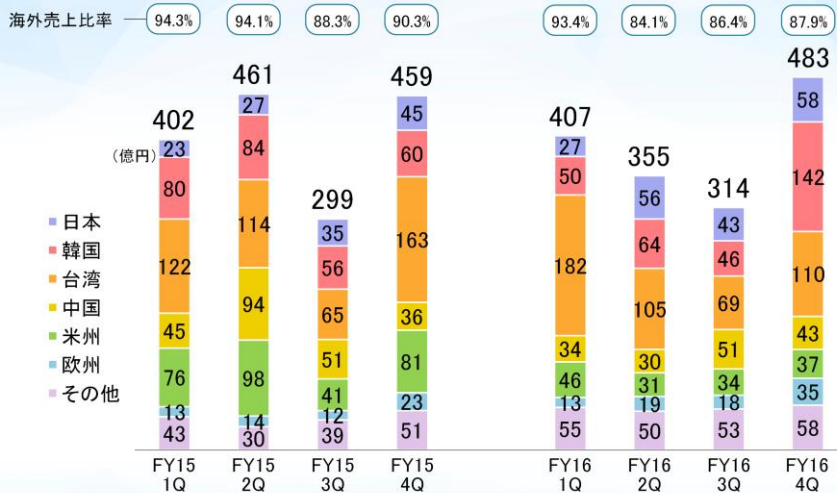
2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

10

- 2016年度第4四半期のセグメント別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比 66%増 312億円
うち非メモリ・テスタ 184億円
メモリ・テスタ 128億円
 - ・ 非メモリ・テスタは、季節性による3Qの売上減少から回復
 - ・ メモリ・テスタは3Qに受けた大型受注を売り上げたもの
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期比 69%増 90億円
 - ・ デバイス・インタフェースとナノテクノロジーが伸びた
- サービス他
 - ・ 前期比 13%増 82億円
 - ・ 保守売上が堅調

四半期売上高 地域(出荷先)別



ADVANTEST.

○ 2016年度第4四半期の地域別売上高

- 前期比で変動が大きかった地域

韓国

メモリ・テストの売上が拡大

台湾

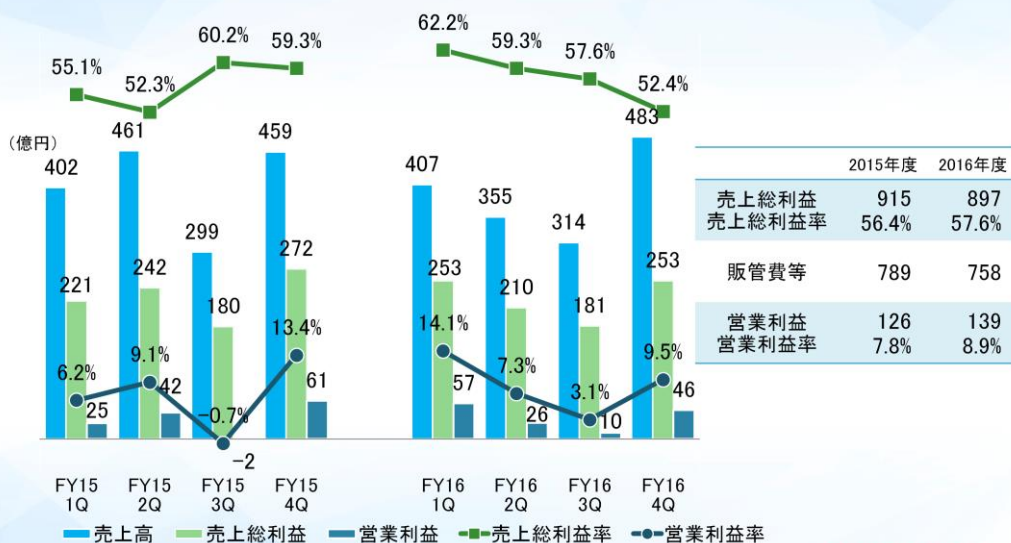
スマートフォン関連のテスト売上が回復

日本、欧州

車載関連テストの売上増

これらの結果、海外売上比率 87.9%

売上高/売上総利益/営業利益



ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

12

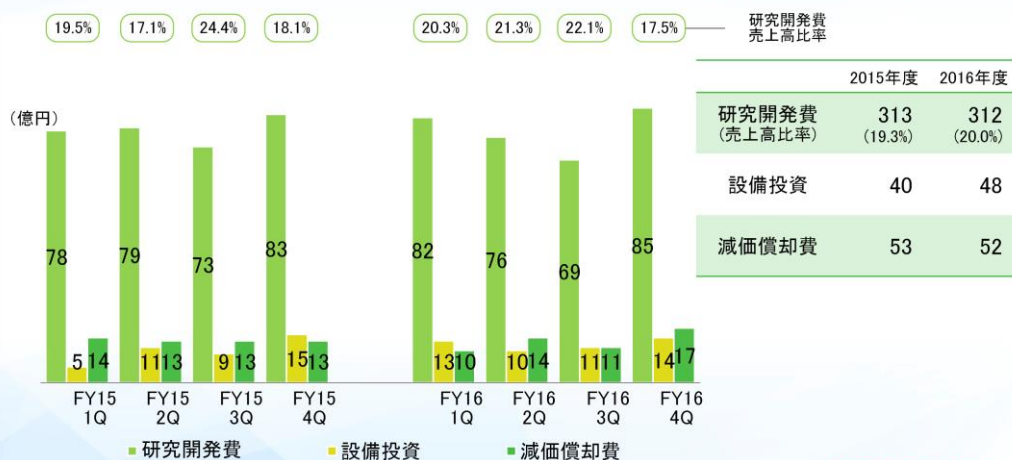
○ 2016年度第4四半期の営業利益

- 売上総利益
前期比 73億円増 253億円
- 売上総利益率
前期比 5.2ポイント悪化 52.4%
収益性が良くない、一部メモリ・テストの売上構成比が上昇
- 販管費等
前期比 36億円増 207億円
賞与引当金の増加などによるもの
- 営業利益
前期比 36億円増 46億円
- 営業利益率
前期比 6.4ポイント改善 9.5%

○ 2016年度通期の営業利益

- 売上総利益率 前年度の56.4%から1.2ポイント改善 57.6%
通期全体では製品ミックスは想定以上に良い方向で推移
- 販管費等 前年度比 30億円減 758億円
円高により海外オペレーション費用が減少
- 営業利益 前年度比 13億円増 139億円
- 営業利益率 8.9%

研究開発費/設備投資/減価償却費



ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

13

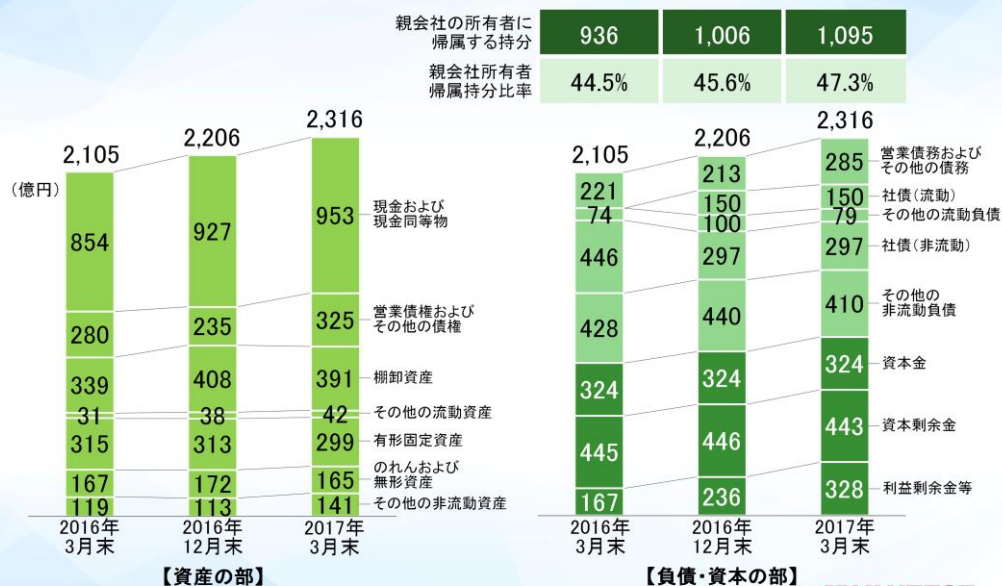
○ 2016年度第4四半期の研究開発費等

- 研究開発費 85億円
- 設備投資 14億円
- 減価償却費 17億円

○ 2016年度通期の研究開発費等

- 研究開発費 312億円
- 設備投資 48億円
- 減価償却費 52億円

バランス・シート



ADVANTEST.

○ 2017年3月末時点のバランス・シート

- 親会社の所有者に帰属する持分 1,095億円
- 親会社所有者帰属持分比率
前年度末比 2.8ポイント増 47.3%

2017年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長
吉田 芳明

2017年度業績予想

(億円)

	2016年度 実績	2017年度 予想	前年度比 増減額	前年度比 増減率
受注高	1,647	1,750	+103	+6.3%
受注残	422	452	+30	+7.1%
売上高	1,559	1,720	+161	+10.3%
半導体・部品テストシステム事業	1,013	1,120	+107	+10.6%
メカトロニクス関連事業	252	270	+18	+7.0%
サービス他	295	330	+36	+12.1%
営業利益	139	180	+41	+29.4%
営業利益率	8.9%	10.5%	+1.6pts	
税引前利益	150	182	+32	+21.0%
当期利益	142	150	+8	+5.6%
当期利益率	9.1%	8.7%	-0.4pts	

※売上高合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

16

○ 2017年度の業績予想について

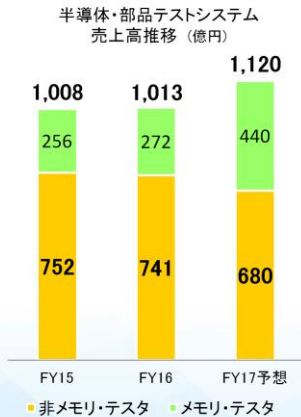
- まず通期の業績予想数値から。
- 各事業の見通しを踏まえ、2017年度の業績予想を
 - 受注高 1,750億円
 - 売上高 1,720億円
 - 営業利益 180億円
 - 当期利益 150億円

とします。

- 当期利益の伸びが小幅な予想となっているのは、2016年度に繰延税金資産を計上したことによるものです。

17年度見通し（事業別）

■ 半導体・部品テストシステム



非メモリ・テスト事業

- ✓スマートフォン在庫調整に伴い、ロジック向け需要がスロースタート
- ✓高性能な液晶/有機ELパネル関連需要が足元旺盛、さらに伸びる可能性
- ✓2018年は市場再拡大を見込む

ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

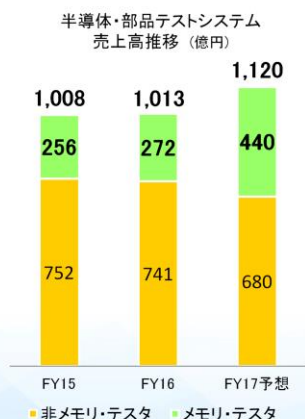
17

○ 半導体・部品テストシステム事業の見通しについて

- 業績予想の前提となる、各事業セグメントの環境、施策について説明します。
- まず非メモリ・テストです。
- 今年度の非メモリ・テスト市場規模は前年度比約10%程度減少の、約18億米ドル程度と現時点では見積もっています。
- 足元に生じている中国スマートフォンの在庫調整に伴って、ロジック向けテストの新規投資は伸びを欠いています。これを踏まえ、当社の非メモリ・テスト事業の先行きを慎重に見ることになりました。
- ただ今後のスマートフォンの需要自体は堅調と見ています。スマートフォンの在庫調整と販売機種切り替えの動きが進み次第、テストの需要も戻り、秋にはロジック向けテストの販売ペースは復調すると見ています。
- ロジックIC以外の領域では、液晶/有機ELパネル関連のテスト需要が、足元活発です。今後の市場動向次第では、さらに需要は膨らむ可能性があります。16年度は、製品供給が間に合わず、売上が伸びませんでしたので、しっかりと需要に応えられるよう、生産体制を整備していきたいと考えています。
- ほか、通信関連、ゲーム機、車載関連などは、堅調です。2018年に非メモリ・テスト市場は再拡大すると見込んでおり、各顧客の動向を踏まえると、これらの領域でもスマートフォン向け同様、下期は数字が伸びると予想しています。

17年度見通し（事業別）

■ 半導体・部品テストシステム



メモリ・テスト事業

- ✓3D NANDの量産拡大が市場を牽引
- ✓生産能力増強投資を軸に、NANDフラッシュ向けテスト市場は前期比大きく拡大
- ✓市場増加分の過半を当社が獲得見込み
- ✓DRAM向けでは、デバイス市場の成長に沿った需要に加え、生産能力改善のための古いテストの置き換え需要が到来

ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

18

○ 半導体・部品テストシステム事業の見通しについて

- ・ 次にメモリ・テストについてです。
- ・ 今年度のメモリ・テスト市場規模は、前年度比約25%増加して、約650百万米ドル程度となると見積もっています。
- ・ 市場拡大を牽引するのは、3D NAND用の生産能力増強に向けた、NANDフラッシュ向けのテストの増強投資です。
NAND向けは前工程、バーイン工程、後工程、いずれも前年度に比べ、大きく需要が伸びると見えています。
- ・ NAND関連需要が伸びる中で、競争も激しくなっています。
ただ市場増加分の過半は、当社が獲得できるものと考えています。
- ・ DRAM向けについては、昨年続き、サーバー向け・スマートフォン向けでの底堅いテスト需要を見込んでいます。
それに加えて、生産能力改善に向けた古いテストのリプレースが見込まれることで、NAND同様に前年度以上の売上を見込んでいます。
- ・ 非メモリ・テストと同様、メモリ・テストも昨年度末の需要の急伸に追従しきれず、今年度に売上がずれこんだ分があります。
生産体制を整えて、メモリ・テスト事業は今年度440億円を売上げていきます。

17年度見通し（事業別）

メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



■ メカトロニクス関連

- ✓メモリ・テスト需要の伸びに伴い、ハンドラ、インタフェース需要も増加
- ✓ナノテクノロジー事業は来期以降の回復に向け、研究開発を進める

サービス他 売上高推移（億円）



■ サービス他

- ✓半導体市場の伸びを背景に、フィールドサービス需要は堅調
- ✓SSDテストの業容拡大施策を推進

ADVANTEST.

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の見通しについて

- メカトロニクス事業の今年度の売上予想は 270億円 です。
- デバイス・インタフェース事業が、メモリ・テストの需要の伸びに伴って売上を伸ばす見通しです。
- ナノテクノロジー事業は、フォトマスク検査装置の需要が伸びず、前年度並みの水準に留まる見通しです。
18年度以降の売上回復に向け、先端ノード向け製品開発を進めていきます。
- サービス他事業の今年度の売上予想は 330億円 です。
- フィールドサービス、SSDテストの堅実な売上増加を見込んでいます。
- SSDテストはその成長性に期待をもっている製品のの一つです。
その期待を実現するために、製品ポートフォリオ充実を進めてきました。
売上拡大に弾みをつけるため、今年は、開発体制の強化と販売体制の整備を行います。

業績予想の前提

		(億円)	
		2016年度 実績	2017年度 予想
研究開発費		312	330
設備投資		48	50~60
減価償却費		52	50~60
為替レート(円)	1米ドル	108	110
	1ユーロ	119	120

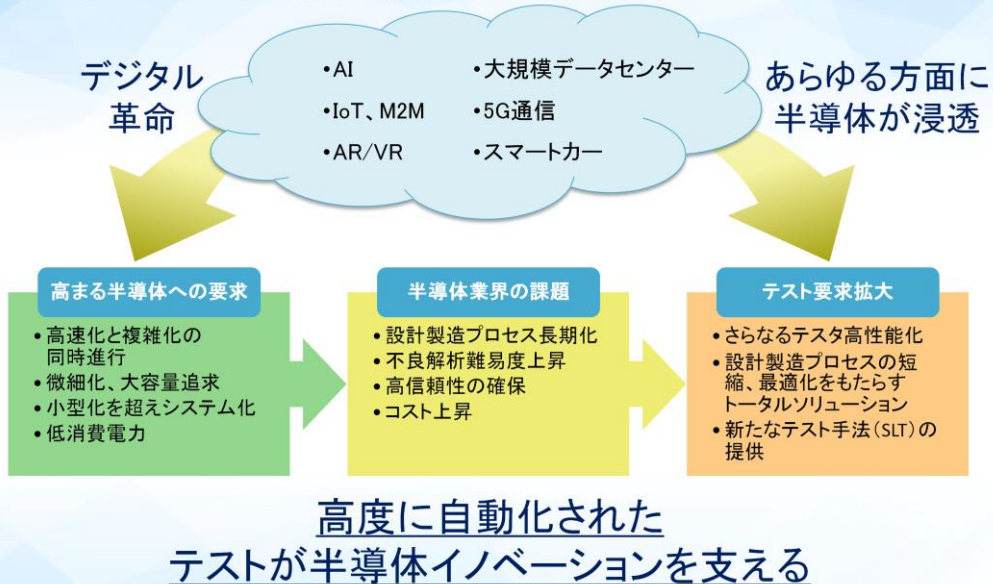
- ✓ テストニーズの将来の変化を見据え、中長期的な成長につながる研究開発投資の増額。事業体制整備、生産体制最適化を推進
- ✓ 為替感応度予想(1円安時、対通期営業利益)
米ドル:+4億円、ユーロ:-1億円

ADVANTEST.

○ 業績予想の前提

- 最後に業績予想の全社的な前提についてお話しします。
- 16年度は下期からメモリ・テストの需要が大きく伸びました。メモリ向けのテスト需要は、17年度、18年度と、今後数年にわたって好調が続く可能性があると考えています。大手メモリーメーカーのキャパシティ増強投資、中国の半導体投資に期待しています。
- 今後登場する、5G移動通信、自律走行車、AIといった新たなテクノロジーは、半導体に高速化と複雑化、高度な信頼性を要求します。この流れの中で、非メモリ・テストにおいても、テスト需要は中長期にわたって伸びていくものと見えています。
- そうしたテストニーズの将来の変化を見据え、中長期的な成長につながる研究開発投資、事業体制整備、生産体制最適化については、積極的に推進していく方針です。
- 業績予想の前提レートは、1米ドルが110円、1ユーロが120円です。

テスト市場に変化の兆し



ADVANTEST.

2017/4/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

21

○ テスタ市場に変化の兆し

- 今、テスト要求の拡大という形で、テスト市場に変化の兆しが起きているように感じています。
- IoTや自動運転への開発投資、AIやディープラーニングの普及、巨大データセンターの増設、5G通信の導入など、デジタル革命が進展中です。この動きは生活のあらゆる場面に半導体が浸透することを意味します。膨大なデータのストレージ需要、そのデータの演算処理能力増強、そして高速通信の需要は、ますます拡大します。
- より高性能で、小型で省電力な半導体が求められる傾向は今後も続き、個数の増大はもちろんですが、信頼性がますます重要視される半導体が増えることは間違いありません。
- 一方で半導体の設計工期や製造工期はますます長くなる傾向にあります。不良を解析し歩留改善することも一部のデバイスではとても難しくなっています。あるいは今までのやり方では、信頼性を保証しきれなくなっている。そうした例が、増えてきている印象です。
- 性能の良いテスタを導入するのみでなく、設計の見直しやテストフローの見直しを行うという流れが起き始めています。テストプロセス全体を最適化することで、半導体の設計から量産販売までの期間短縮を加速させる、テストのトータルソリューションが求められています。それを提供することが、テスタメーカーの差別化につながります。
- 短期の業績とのバランスをとりながらも、中長期的には積極的な開発投資を継続し半導体産業のイノベーションを支えていくことが、当社の使命であり、成長の源泉と考えています。
- 成長のために必要な、グローバルな事業体制強化に向けて、経営体制を変更します。



ADVANTEST®

ADVANTEST.